

平成 28 年 度

小学校教員資格認定試験

教職に関する科目 (Ⅱ)

体 育

注 意 事 項

受験者は、下記注意事項によること。それ以外の注意事項は試験実施大学の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 実施大学名、氏名、受験番号、受験科目を平成 28 年度「幼稚園・小学校教員資格認定試験 解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
3. 受験番号、受験科目をマークしてください。
ただし、受験科目のマークについては、小学校の欄にマークしてください。
4. 解答カードの中で特に受験番号、受験科目の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
5. 解答は、全て解答カードの解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
6. マークは必ず鉛筆を使用して、枠内にきちんと記入してください。
訂正するときは、消しゴムで完全に消してください。また、解答カードを曲げたり折ったりしてはいけません。
解答カードが汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に解答カードの交換を申し出てください。
7. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があってから 50 分です。
8. 試験が終わるまで退室できません。 [マーク例]
9. 試験監督者の「やめ。」の合図があったら、直ちにやめてください。 (よい例) ●
10. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
11. 試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。 (悪い例) ⊙ ⊗ ⊕ ⊖

問 1 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)において、体育科の目標として「健康・安全についての理解」が示されている。この「健康・安全についての理解」の解説部分に示されていないものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア けがの防止及び病気の予防
- イ 発達の段階に応じて高める体力の内容
- ウ 心の健康
- エ 健康な生活

問 2 「小学校学習指導要領」(平成 20 年文部科学省告示第 27 号)「第 2 章 第 9 節 体育 第 2 各学年の目標及び内容」において、第 5 学年及び第 6 学年の「3 内容の取扱い」に示されているものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 内容の「A 体づくり運動」については、2 学年にわたって指導するものとする。また、(1)のイについては、体の柔らかさ及び巧みな動きを高めることに重点を置いて指導するものとする。
- イ 内容の「D 水泳」の(1)については、水中からのスタートを指導するものとする。また、学校の実態に応じて背泳ぎやバタフライを加えて指導することができる。
- ウ 内容の「E ボール運動」の(1)については、アはバスケットボール及びサッカーを、イはプレールボールを、ウはティーボールを主として取り扱うものとするが、これらに替えてそれぞれの型に応じたハンドボールなどのその他のボール運動を指導することもできるものとする。
- エ 内容の「F 表現運動」の(1)については、地域や学校の実態に応じてフォークダンスを加えて指導することができる。

問 3 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)において、第 3 学年及び第 4 学年の「A 体づくり運動」領域の「イ 多様な動きをつくる運動」の「(イ) 体を移動する運動」の内容として例示されていないものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア ^は這う、歩く、走るなどの動きで構成される運動
- イ 渡るなどの動きで構成される運動
- ウ 登る、下りるなどの動きで構成される運動
- エ 一定の速さでのかけ足

問 4 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)において、第 5 学年及び第 6 学年の「B 器械運動」領域の「ア マット運動」の「回転技の例示」として示されていないものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 大きな前転
- イ 大きな後転
- ウ 安定した前転
- エ 安定した後転

問 5 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)において、第 1 学年及び第 2 学年の「C 走・跳の運動遊び」領域の内容として例示されていないものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 50～60 m 程度のかげっこ
- イ 折り返しリレー遊び
- ウ 幅跳び遊び
- エ ゴム跳び遊び

問 6 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)において、第 3 学年及び第 4 学年の「F 表現運動」領域の「態度」の内容として示されていないものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア よい動きを知り、友達のよい動きを自分の踊りに取り入れること。
- イ 表現やリズムダンスに進んで取り組むこと。
- ウ きまりを守り、友達と励まし合って練習や発表、交流をすること。
- エ 活動の場の安全を確かめること。

問 7 「小学校学習指導要領」(平成 20 年文部科学省告示第 27 号)「第 2 章 第 9 節 体育 第 2 各学年の目標及び内容」において、第 1 学年及び第 2 学年の「D 水遊び」領域の内容として示されているものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 「もぐる遊び」と「泳ぐ遊び」
- イ 「水に慣れる遊び」と「泳ぐ遊び」
- ウ 「浮く・もぐる遊び」と「水をかく遊び」
- エ 「水に慣れる遊び」と「浮く・もぐる遊び」

問 8 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成 20 年 8 月)において、第 5 学年及び第 6 学年の「E ボール運動」領域の「イ ネット型」の例示として示されていないものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア ボールの方向に体を向けて、その方向に素早く移動すること。
- イ 味方が受けやすいようにボールをつなぐこと。
- ウ 近くにいるフリーの味方にパスを出すこと。
- エ 相手コートにボールを打ち返すこと。

問 9 「小学校学習指導要領」(平成 20 年文部科学省告示第 27 号)「第 2 章 第 9 節 体育 第 2 各学年の目標及び内容」において、第 3 学年及び第 4 学年の「G 保健」領域の「(1) 健康の大切さを認識するとともに、健康によい生活について理解できるようにする。」の内容として示されていないものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 心や体の調子がよいなどの健康の状態は、主体の要因や周囲の環境の要因がかかわっていること。
- イ 毎日を健康に過ごすには、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けること、また、体の清潔を保つことなどが必要であること。
- ウ 生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、栄養の偏りのない食事をとること、口腔の衛生を保つことなど、望ましい生活習慣を身に付ける必要があること。
- エ 毎日を健康に過ごすには、明るさの調節、換気などの生活環境を整えることなどが必要であること。

問10 次の文章は、『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成20年8月)において、第5学年及び第6学年の「G 保健」領域の「(1) 心の健康」について述べたものである。空欄〔 A 〕～〔 C 〕に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下の解答群ア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

心の健康については、心も体と同様に発達すること及び心と体は相互に影響し合うことについて理解できるようにする必要がある。また、不安や悩みに対して、適切な対処の方法があることを理解できるようにする必要がある。

このため、本内容は、感情、〔 A 〕、思考力など、様々なはたらきの総体としてとらえることができる心が、様々な〔 B 〕を通して年齢に伴って〔 C 〕すること、また、心と体は相互に影響し合っていること、さらに、不安や悩みにはいろいろな対処の方法があることなどを中心として構成している。

〔解答群〕

	〔 A 〕	〔 B 〕	〔 C 〕
ア	適応力	社会体験	発達
イ	社会性	生活経験	発達
ウ	適応力	生活経験	成長
エ	社会性	社会体験	成長

問11 体づくり運動の「体ほぐしの運動」の行い方として適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行うこと。
- イ 友達に補助されながら竹馬や一輪車に乗ること。
- ウ 手や背中で体を支えていろいろな逆立ちをすること。
- エ 両足又は片足でリズムを変えて跳ねること。

問12 次の文章は、器械運動の指導について述べたものである。適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 鉄棒運動の「かかえ込み回り」では、両手でぶら下がって前後に足抜き回りをしたりすること。
- イ マット運動の「壁倒立」では、腕立ての姿勢から足の裏を壁につけ、歩くように登って逆さ姿勢になること。
- ウ 跳び箱運動の「台上前転」では、助走から両足で強く踏み切り、腰を大きく開いた倒立の姿勢で着手し、台上で前転して着地をすること。
- エ 鉄棒運動の「逆上がり」では、足の振り上げとともに上体を後方へ倒し、手首を返して鉄棒に上がることを。

問13 次の文章は、器械運動における技とその発展技について述べたものである。適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア マット運動における「壁倒立」の発展技として、「ブリッジ」がある。
- イ 鉄棒運動における「後方片膝かけ回転」の発展技として、「前方片膝かけ回転」がある。
- ウ 跳び箱運動における「首はね跳び」の発展技として、「大きな台上前転」がある。
- エ マット運動における「後転」の発展技として、「開脚後転」がある。

問14 次の文章は、第5学年及び第6学年における陸上運動の指導について述べたものである。適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 走り高跳びでは、助走を5～7歩程度とし、リズムカルな助走から、上体を起こして踏み切ることを指導する。
- イ ハードル走では、40～60 m程度の距離で、インターバルを3～5歩のリズムで走ることを指導する。
- ウ 短距離走では、50～80 m程度の距離で、クラウチングスタートから、素早く走り始めることを指導する。
- エ リレーでは、一人が走る距離を50～100 m程度とし、テークオーバーゾーン内で、減速の少ないバトンパスをすることを指導する。

問15 次の文章は、第5学年及び第6学年における水泳の指導について述べたものである。適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 50～100 m 程度を目安にしたクロールで、リズムカルなばた足をすることを指導する。
- イ 25～50 m 程度を目安にした平泳ぎで、両手を前方に伸ばし、円を描くように手を左右に開き水をかいた後、顔を前に上げ呼吸をすることを指導する。
- ウ 25～50 m 程度を目安にした平泳ぎで、足の親指を外側に開いて足の裏全体で水を押し出すとともに、キックの後に伸びの姿勢を保つことを指導する。
- エ 25～50 m 程度を目安にしたクロールで、手を左右交互に前に伸ばして水に入れ、水をかくことや、リズムカルなばた足をすることを指導するとともに、肩がローリングしないように顔を横に上げて呼吸することを指導する。

問16 次の文章は、『小学校学習指導要領解説 体育編』（平成20年8月）において、第5学年及び第6学年の「E ボール運動」領域の中で説明されている「簡易化されたゲーム」について述べたものである。空欄〔 A 〕と〔 B 〕に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下の解答群ア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

「簡易化されたゲーム」とは、ルールや形式が一般化されたゲームを児童の〔 A 〕を踏まえ、プレイヤーの数、コート of 広さ（奥行きや横幅）、プレー上の制限（緩和）、ボールその他の運動用具や設備など、ゲームのルールや様式を修正し、〔 B 〕を追求しやすいように工夫したゲームをいう。

〔解答群〕

- | | 〔 A 〕 | 〔 B 〕 |
|---|-------|-------|
| ア | 興味や関心 | 学習課題 |
| イ | 発達の段階 | 人間関係 |
| ウ | 興味や関心 | 人間関係 |
| エ | 発達の段階 | 学習課題 |

問17 『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成20年8月)において、第3学年及び第4学年の「E ゲーム」領域の「ア ゴール型ゲーム」の例示として示されていないものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア ラインサッカー、ミニサッカーなどを基にした易しいゲーム
- イ タグラグビーやフラッグフットボールを基にした易しいゲーム
- ウ プレルボールやティーボールを基にした易しいゲーム
- エ ハンドボール、ポートボールなどを基にした易しいゲーム

問18 次の文章は、『小学校学習指導要領解説 体育編』(平成20年8月)において、第5学年及び第6学年の「F 表現運動」領域の「ア 表現」の中で説明されている「いろいろな題材」について述べたものである。空欄〔A〕と〔B〕に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下の解答群ア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

「いろいろな題材」とは、〔A〕感じの題材や〔B〕が生きる題材、また、題材を一つに固定しない「多様な題材」を示している。

〔解答群〕

- | 〔A〕 | 〔B〕 |
|-------|----------|
| ア 素早い | 一人一人(個人) |
| イ 激しい | 群(集団) |
| ウ 激しい | 一人一人(個人) |
| エ 素早い | 群(集団) |

問19 次の文章は、犯罪の起こりやすい場所や場面について述べたものである。適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 簡単に入出入りできなくて、誰からも見えにくい場所
- イ 知らない人に声をかけられ、「一緒に行こう」などと誘われる場面
- ウ 落書きやごみが放置されているような、地域の人々の目が行き届いていない場所
- エ エレベーターの中などで、知らない人と二人だけになる場面

問20 次の文章は、けがの手当てについて述べたものである。適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア すり傷の手当ては、きれいな水を流しながら、傷口の周りの汚れを洗い流す。

イ 鼻血の手当ては、上を向き、鼻の骨のすぐ上あたりを指で強めに押さえる。

ウ 切り傷の手当ては、清潔なハンカチなどを当てて強く押さえる。傷口が汚れていたら、きれいな水で洗い流す。

エ 打ぼく・ねんざの手当ては、痛いところを、痛みが少なくなるまで水や氷などで冷やし、動かさないようにする。